

県立大宮科学技術高校 ≪活性化・特色化方針（スクール・ポリシー）≫

課程	全日制	学科	機械工学科 電気工学科 建築デザイン工学科 ロボット工学科 情報サイエンス科	R8.5.1 生徒数	1年生 (男) 226 (女) 43	計 269			
アクセス	埼玉新都市交通ニューシャトル今羽駅から徒歩 10 分 JR 宇都宮線東大宮駅から徒歩 20 分								
＜目指す学校像＞									
グローバル化する社会の持続的な発展に向けて、高い教養と先端技術を活用した創造性を育み、我が国の科学技術をリードする人材を育成する学校									
＜教育課程等＞ ※ 1									
生きた学力の確実な定着を図るため、大学共通テストに対応した国語、数学、理科、英語の授業を充実させ、数理、データサイエンス、AI を踏まえた授業をすべての生徒に実施し、1、2 年生では普通科科目を全学科共通で履修します。また、専門分野における基礎的な知識の修得と実践的能力・デザイン力を身につけるための専門科目を配置しています。3 年生では、生徒のキャリアデザインに即した類型型選択とすることで、生徒個人に応じた資質能力を育成します。更に、大学や民間企業等と連携し、科学探究（総合的な探究の時間）や学科横断型課題研究といった探究的な学びを充実させ、技術立国人材の育成を図ります。									
＜本校が求める生徒＞ ※ 2									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校教育を受けるために必要な基礎的な知識・技能を十分に身に付けている生徒。 ・ 好奇心が強く、何事にも意欲的な高い創造性を有する生徒。 									
＜学校行事＞									
特別活動部が中心となって、様々な学校行事が行われている。文化祭、体育祭の他、予選会や芸術鑑賞会など、年間を通して生徒の様々な能力を育成する行事が用意されている。また、国際教育委員会による活動もあり、台湾の姉妹校の他、海外の文化に触れる機会も多くある。各学科では、大学や企業と連携した授業が設定され、先端技術に触れる学校外での学びを支援する体制も用意されています。									
＜部活動＞									
大宮科学技術高等学校の放課後は、「全員が同じ過ごし方をする」のではなく、部活動に打ち込む生徒、探究活動を深める生徒、進路実現のために学習や準備を進める生徒といったように、生徒自身の目標や特性に応じた選択ができる時間となっています。部活動に関しては、運動部が硬式野球、バスケットボール、バレーボール、柔道、サッカー、陸上競技、ソフトテニス、卓球、文化部は内燃、電気研究、ラジオ、建築研究、美術、同好会は茶道、軽音楽があります。									
＜家庭・地域との連携＞									
基本的な考え方 大宮科学技術高等学校では、生徒の成長を「学校だけで完結させる」のではなく、家庭・地域と協働して支えることを重視しています。 家庭は生徒の生活習慣・学習姿勢を支える最も身近な環境であり、大学や企業などの地域は実社会とつながる学びの場です。三者が連携することで、科学技術教育の成果をより実践的な力へと高めることを目指しています。									
進路	R8.3 卒業生	四大	—	短大	—	専門	—	就職	—
	傾向	大宮科学技術高等学校は今年度（開校初年度）にスタートした新設校であるため、実績データに基づく進路結果はまだ存在しません。そのため、学校の設置目的・学科構成、近年の理工系・専門高校の全国的進路動向を踏まえたうえで、「開校から 3 年後（＝第 1 期生卒業時）」に想定される進路傾向を想定すると、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理工系志向が非常に強い ・ 「難関大一択」ではなく、実学・専門性重視 ・ 総合型選抜・学校推薦型選抜の活用が多い と予想されます。 							

【学校教育法施行規則第 103 条の 2】高等学校における三つの方針

裏面 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

※ 1 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

※ 2 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針

観点	育成したい資質・能力	説明
知識・技能の習得	理解力 (体系的な)	知識・技能を定着させ、体系的・系統的な理解力を身に付ける
	活用力	習得した知識・技能を他の分野に活用する力を身に付ける
思考力・判断力・表現力の育成	問題発見力	物事の中から本質的な問題を見だし、課題として定義できる力を身に付ける
	批判的思考力	主張や根拠を吟味し、前提やバイアスを見抜きながら判断する力を身に付ける
	論理的思考力	根拠に基づいて筋道立てて考え、矛盾のない結論を導く力を身に付ける
学びに向かう力、人間性等の育成	自己調整力(メタ認知)	自分の学習の進め方を振り返り、改善しようとする力を身に付ける
	協働性(他者と協力する力)	多様な他者と協力し、学び合いながら課題に取り組む力を身に付ける
	粘り強さ(レジリエンス)	うまくいかない時も投げ出さず、試行錯誤を続ける力を身に付ける

目標達成度評価基準(ルーブリック)表

8つの力	A(優秀)	B(及第)	C(要改善)
理解力 (体系的な)	知識・技能をつなげ、体系的な理解が十分に身に付いている	知識・技能を習得して、体系的な理解力が身に付いている	知識・技能が不確かなため、知識・技能の定着が十分でない
活用力	知識・技能を一分野だけでなく、他の分野に活用できている	確かな知識・技能を習得し、学習活動や研究活動で活用できている	知識・技能が不確かなため、他の用途に活用が十分でない
問題発見力	状況を深く分析して根拠を的確に見出し、探究を前進させる質の高い問いを立てている	問題を根拠と共に見出し、根拠を添えて課題に向かう問いを立てている	問題が表面的で根拠が十分でないため、解決につながる問いが立てられていない
批判的思考力	情報の妥当性を多面的に検討し、根拠をもって質の高い判断を下せる	情報の妥当性を確かめ、根拠を示して適切な判断ができる	情報の検討が表面的で、妥当な判断や根拠の提示が不十分である
論理的思考力	情報を整理し筋道立てて考え、結論と根拠を一貫性のある形で示している	情報を整理し、結論と理由を結び付けて説明できている	情報整理や理由付けが不十分で、結論とのつながりが弱い
自己調整力 (メタ認知)	自身の学習を客観視して課題を捉え、行動を柔軟に改善して進められる	自分の理解や課題を振り返り、必要な行動を調整して学習を進められる	自分の理解状況を捉えられず、行動調整が学習に十分生かされていない
協働性 (他者と協力する力)	他者の意見も尊重し役割を的確に果たし、協働をより良い方向へ導ける	互いの意見を尊重し協力しながら、役割を果たして活動ができている	意見調整や役割遂行が不十分で、協働が円滑に成立していない状態である
粘り強さ (レジリエンス)	困難に直面しても柔軟に工夫し、粘り強く取り組み前向きに改善できる	困難に対して諦めず取り組み、必要に応じて改善を試みている	困難に直面すると取り組みが滞り、改善行動を継続できていない